

2017/2/15

(日々雑感 17)



アタマは身体の中で一番騙されやすい臓器です。

腕、脚、胸、背中、お腹は正直です。傷ついたり、傷んだままが素直に現れます。しかし、アタマだけは、そうではない。

そのことに気づかされたのは、神経疼痛性障害という病にかかったときです。

患部に痛みのもととなる発症物質、発症部位があるわけではなく、アタマが何らかの原因で勝手に勘違いをして、そこが痛いという架空の信号を受けるために起こる病気でした。

ですから、痛みのもとと想定される患部をいくら治療しても、痛みがなくならない。しかもいくら調べても患部が存在しない。なのにアタマが、そこが痛いと感じて、その人間が辛い思いをしているのは事実という成り立ちでした。

その病名に至る間、担当部位の医者からは「痛みに弱い」「我慢が足りない」「大げさなんじゃありませんか？」と、さんざんな言葉をあびせられました。

担当部位の医者が、その病名を知らなかったからなのです。

違った角度から、アタマの騙されやすさを見てみましょう。

例えば成功談というのがあります。あるいはそのインタビューとか。

苦節四年。前回のオリンピックの屈辱をバネに今回の五輪では金メダルの〇〇さんへのインタビューとか、はたまた、七転び八起き、艱難辛苦の末、企業五年で売り上げ10億とかのインタビュー。

そのインタビューを受けて話している中で、本人は知らず知らずのうちに話を美化したり、説明しやすくしたり、受けが良くしたりするようになります。そうして、それが、克服の真因だと勝手に思い込んでしまうことに。

ところが、次回の挫折で、その真因だと見なしたものに従って再起しようとしても上手くいかないことがままあります。

恐らく原因は、度重なるインタビューが誤った自己認識を作ってしまったのかもしれない。

これは、世に言う「失敗は成功の元」の反対で、「成功は失敗の元」の事例です。

アタマは騙されやすい、の例です。

しかし、騙されやすいアタマを逆手にとって活かす方法もあります。

ナポレオン・ヒルではありませんが「思考は実現する」というやり方です。

身に起こった悪いことを、あるいは不運を、良いこと、幸運へのトリガーと考えて前向きに役立てるやり方です。

「失敗はない。ただ経験があるだけ」とか「成功の秘訣は、成功するまでやり続けること」とかです。

思い込みに騙されて没落するか、上手く騙して成功するかと言う話です。扱い方次第と言うわけです。

しかし、更にその上がありました。

アタマを特別扱いしない方法です。司令塔、中央制御室扱いせずに、たかが人体の臓器の一部とみて、並立化、平準化する考え方です。重み付けを省く考え方です。首都東京ではなく、一都市東京です。

それによって何が起こるかという、騙されやすいアタマの特性を認知して、過度に偏重しない姿勢が生まれます。

「たかがアタマ。されどアタマ」の「されど」を極力抑えて「たかがアタマという一臓器」に徹することです。

ぼくは、アタマを身体機能の一部にしか過ぎないと言うこの考え方が良いのではないかと思っています。

少なくとも、人間につきもので、不幸な考え方の原因になる「みょうな思い込み」を、まな板の上ののせて材料として視覚化しやすいからなのです。

知らず知らずのうちに忍び込んで悪さをする「みょうな思い込み」というのは、それくらいとらえ方を変えないと打ち消せないとてもやっかいなもののような気がするのです。